

第1期周南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価に関するご意見等〈取りまとめ〉

項目	基本目標ごとの「振り返り・総括評価」に対するご意見
<p>基本目標1 雇用を確保し、安定して働くことができるまち</p>	<p>数値目標（市内就業者数）は目標値を上回っているが、今回の目標値が当市の抱える問題を解決するに十分な目標値であったのか再検証する必要がある。各推進施策が就業者の増加に具体的にどれだけ寄与したか計りにくく、施策、目標値を見直す必要がある。</p>
	<p>目標値を上回っていることから、推進施策が雇用の創出に寄与したと考えられる。</p>
	<p>目標値は達成しており、有効な取組であったと評価できる。</p>
	<p>基本目標に対する数値目標は達成しているが、重要業績評価指標（KPI）の数値目標（市内就業者数増加）への寄与度が分かりにくいいため、KPIを検討する必要がある。</p>
	<p>研究プロジェクト誘致には、研究機関等との連携も重要と思います。</p>
	<p>基本目標を達成しており、引き続き安定的な雇用の確保に向け、施策の進捗を図る必要がある。また、今後は各推進施策のKPI指標ごとに、どれだけの雇用が生まれ、実際にどの世代で男女何人雇用され、その内、周南市にどれだけ還元できたのか、どの推進施策が最も効果的であったか、具体的に分析できればより良いかと思います。</p>
	<p>基本目標に対する数値目標は達成しており、有効な推進施策であると考えます。</p>
	<p>推進施策（4）について、6次産業化を農林水産業の担い手不足の問題解決策の柱とされて成果を挙げられていると理解しました。6次産業化以外の取り組みについてはここで触れられておりませんが、新規就業者支援また耕作放棄地に向けての取り組みにはどのようなものがあったのでしょうか。KPIに例えば耕作放棄地の面積増加率の抑制等加えると他の取り組みについての評価が明確になるのではないかと感じました。</p>
	<p>基本目標は達成しているので、引き続き、安定的な雇用の確保・安心して働くことのできるまちづくりを進めていく必要があると思います。推進施策（4）6次産業化の推進については、もう少し高い目標を設定すべきだと思います。利用しやすい制度設計や結果検証も必要かと思います。</p>

項目	基本目標ごとの「振り返り・総括評価」に対するご意見
<p><u>基本目標2</u> 安心して子育て・教育ができるまち</p>	<p>基本目標に対する数値目標（人口1,000人あたりの出生数）は、一貫して減少傾向にあり、目標との乖離も大きい。基本目標を達成するためには、従来型の施策、目標設定では歯止めがかからない深刻な状況であり、抜本的な施策策定と目標値への変更と実践が必要である。</p>
	<p>子育て支援については、目標を達成しているが、出生数の実績が達していないことから、推進施策の見直しが必要であると思われる。</p>
	<p>「保育士の継続的・安定的な確保」「放課後児童クラブ支援員育成事業」における＜具体的な取り組み＞とそれを評価するKPIとがどのように繋がっていくか不明。（実働保育士の増加数をKPIとすべきでは。児童クラブ支援員への保護者評価向上をKPIとすべきでは。）</p>
	<p>出生数を増加させるには、前段階として若者の定住や結婚に至る出会いの場が必要であり、それらに対する施策もあれば。</p>
	<p>基本目標に達していない事から、「結婚に対する具体的取組」や「子育てに関するソフト・ハード両面での対策」が必要ではないか。</p>
	<p>数値目標は達成していないが、KPIは概ね目標値を達成している。短期間で効果が表れるものではないと思いますので、継続的な取組が重要だと思います。</p>
	<p>出生数は、単市制度よりも国や県の制度等に負うところが大きいと考えられますが、山口県や全国との比較などの相对比较はしないのですか？当初の目標値設定ルールならそれまでですが。</p>
	<p>KPIがおおむね達成されている一方、「数値目標が達成されていないのはなぜか」についての分析が必要だと思います。</p>
	<p>基本目標を達成していないが、各推進施策は概ね目標を達成している。市民への施策認知不足から基本目標へ転化できていないように思われます。小学生にタブレット端末1人1台のように、給食費無償化など、市民が受動的にサービスを受けられ、直接還元できる施策であれば、着実にサービスの認知につながり、市民満足度を得られ、目標達成につながると思います。</p>
	<p>合計特殊出生率が比較的高いにもかかわらず出生数が減少しているのは、母数である女性の数そのものの減少が大きいものと考えられます。基本目標3と関連して女性の働く場を確保する施策が不可欠だと考えます。</p>
<p>基本目標の評価について、「安心して子供を生み、育てることが出来る環境を整えていくことは、中長期的な視点からも</p>	

	<p>数値目標の達成に有効であり・・・」との表現に違和感があります。基本目標が「安心して子育て・教育ができるまち」づくりであり、出生数は目標達成をはかる数値としておかれているのであれば、「しかし」以下を、「推進施策や主要事業の見直しをおこない、結婚、妊娠・出産・子育てに関する「切れ目のない支援」に取り組むことにより、安心して子どもを生み、育てることができる環境を整えていく。」等のように変更されてはいかがでしょうか。KPIが達成している中で、基本目標に対する数値目標が達成されていないということは、KPIの変更、または推進施策・主要事業の見直しが必須ということかと思えます。</p> <p>推進施策（3）について、コミスクの取り組み・地域資源の活用は他県と比較しても進んでいると伺っています。しかし、ICT教育への取り組みなどは他の自治体と比べむしろ遅れている面もあるように感じています。新型コロナウイルス対策の影響で、今年度は急速に学校のICT化支援が進められるものと思いますが、総合戦略としては、中長期的な視点で未来の学校像ありきでのICT化対応を打ち出していくことが必要かと思えます。また、子どもの貧困問題について取り上げられていましたが、不登校・発達障害児への支援についてもより積極的に取組を打ち出し、現状の学校教育適応へ困難さを抱える子ども達や保護者への支援拡大を図ることで、より安心した子育てが実現できるのではないかと思料します。</p>
	<p>様々なサービスが向上しつつあるので、今後は出生数も増加することを期待しています。せっかくの制度やサービスを多くの方が利用できる環境を望みます。休校が続く今、子供達が安全に平等に学べるようになってほしいです。</p>
	<p>推進施策（3）「教育環境の充実」は、実感としてはまだまだ十分でないと思えます。休校期間中も、オンライン授業はほとんど実施されていません。グローバル化に対応という面でも、まだまだやらなければならない施策があるのではないのでしょうか。</p>

項目	基本目標ごとの「振り返り・総括評価」に対するご意見
基本目標3 若者・女性が住みたいと思い、活躍できるまち	<p>数値目標（25～39歳人口の転出超過数）が当初の値を大きく下回っており、深刻な状況である。推進施策および重要業績評価指標（KPI）を実態に即して見直す必要がある。</p>
	<p>転出超過数の目標と実績がかけ離れているので目標設定が適切だったのか。推進施策についても、目標を達成していないので見直しが必要であると思われる。</p>
	<p>「共創プロジェクトの推進」における令和元年度での各KPIの目標値は途中で改定されたのですか。創業数=8⇒3件、新規就業者数=25⇒10人、認定事業者数=80⇒25件（「第1期の評価P7」と「総合戦略＜平成30年度改訂版P64</p>

	>」の表示を見比べて)
	基本目標を達成していないので、“若い世代が希望する仕事や暮らしやすい環境”を具体化し、若者の実情と調和させる必要があるのでは。
	基本目標に達していない事から、人口流出を抑える為に「若者（高校生・大学生）の意識調査と周南市企業周知の情報発信」が必要ではないか。
	数値目標は達成していないが、全体的な人口減少の影響もある。KPIは概ね目標値を達成しているので、基本的な施策は引き継ぎつつ、事業の内容を見直す必要があると思います。
	事務局仮評価では、「基本目標に対する数値目標は当初の値を下回っている」とされていますが、わかりにくいため達成していない等の表記に改めた方がよいと考えます。
	目標2もそうですが、人口に直結する目標の達成が厳しいように思います。状況としては理解するのですが、「近隣への流出か」「県外への流出か」分析が必要と思います。
	基本目標3については、基本目標1, 2と共有できる、あるいは横断できる要素が多くあると思われます。例えば、基本目標2の推進施策(2)は、基本目標3達成への推進施策にもなりうると思います。アフターコロナも見据え、再度若者・女性が住みたい、活躍するには何が必要で、何を求めているのか、改めてニーズ調査及び再考されても良いかと思えます。
	数値目標が当初の値を下回りましたが、市への移住実績が目標を大きく上回るなど、一定の成果がみられます。大学等への進学に際し市外に流出するケースが多いことから、地域の高等教育機関との連携は有効な推進施策と考えます。
	推進施策(4)について、若者の転出超過数抑制の観点からは、市内の高等教育機関卒業者の市内就職をターゲットにするより、むしろ「関係人口」の増加に努め、大学進学時に県外教育機関に流出した若者を大学卒業時、もしくは第二新卒として市内(または県内)に呼び戻すことに焦点を置くほうが効果的なのではないでしょうか。 また、女性の活躍については、中山間地域の女性の活躍を阻害する要因として、公共交通ネットワークの不足があります。子どもが中学生・高校生になると一般的には女性がフルタイムで働きやすくなりますが、公共交通ネットワークの不足から、通学時に最寄り駅まで自家用車での送迎が必要となるケースが多く、パートタイムで働かざるを得ない地域もあります。電車通学をする生徒が保護者の送迎に寄らず利用できる公共交通ネットワークの拡張が望まれます。
	中高生がおりますが、進学も休日に出かけるのも隣接する他市の場合が多いのが事実です。主な取組にラジオ放送によ

	る情報発信とありましたが、25～39歳の方がラジオを聞くのか疑問です。若い方にも会議に出席してもらえたら良いですね。
	コロナが終息したら、大都市への一極集中が見直され、新しい価値観で地方へ移住する人がきっと増えると思います。今から、それらの人たちにアピールできる、魅力ある施策を準備しておければと思います。

項目	基本目標ごとの「振り返り・総括評価」に対するご意見
基本目標4 賑わいと活力を実感できるまち	関係人口のうち、観光客数を増加させるのはかなりハードルが高いと考える。観光客の増加も引き続き重要であるが、当市の強みであるスポーツ大会誘致の強化と文化会館の更なる活用を検討してはどうか。
	中心商店街等の新規出店数は増加しているが、賑わいを感じられない。推進施策や事業の見直しが必要であると思われる。
	個人旅行が主流となった今、基本目標の達成についてはなかなか難しくなるのでは。体験型重視でインバウンドや教育旅行に対する取組の更なる強化をする必要があるのでは。
	コロナウィルスの影響で、現時点でリアルの人が集まるイベント企画や観光PRは難しい。交流人口や関係人口を増やす取組の具体化に力を入れる等、目標や内容の見直しが必要ではないか。
	年間観光客数は増加しており、取組を継続すべきと思います。
	KPIや総合評価において、事務局評価として「目標値を達成できない年もあった」とされているが根拠不明のため、根拠を示すか削除すべきと考えます。
	まちづくりについては、持続的な取組が重要と思います。徳山駅周辺整備を活かすための取組が必要と思います。
	各種推進施策は即効性のあるものではないように思います。シビックプライドの創出など、数値にはみえない潜在的な効果があると思われます。早期に効果が発現することも大事ですが、引き続き施策の進捗を図る必要があると思います。
	観光交流の促進については、魅力ある観光資源を持っているにもかかわらず目標値を達成していないのは残念です。市外・県外へのさらなる情報発信が必要だと考えます。
観光客を増やす取組が多く実施されていることを初めて知りました。	

項目	基本目標ごとの「振り返り・総括評価」に対するご意見
<p><u>基本目標5</u> 地域資源を活用し、快適に暮らすことができるまち</p>	<p>重要業績評価指標（KPI）が概ね目標値を達成したにも拘わらず、基本目標に対する数値目標が実績値を下回るという非常に厳しい状況である。市街地は徹底して効率的なコンパクトシティへ変貌を推進し、計画的な中山間地域の生活圏づくりが求められる。</p>
	<p>数値目標に達していないことから、推進施策及び主要事業の見直しが必要であると思われる。</p>
	<p>基本目標を達成していないということは、最大の課題とする人口減少問題が更に加速化するのでは。明確に分析し、それに見合った施策が必要。</p>
	<p>P9によると、UIJ ターン相談件数や市の制度を利用した中山間移住者は増加しているため、中山間地域の生活圏づくりは具体的に必要なのではないか。一方、コンパクトな街づくりは、基本目標を概ね達成しており、引き続き安定的な施策の進捗を図る必要がある。</p>
	<p>転入者は減少しているのに、中心市街地の居住人口は増加しているため、「コンパクトなまちづくり」の実現に向かっていくのではないかと。しかし、「周南市に住みたいと思う人の割合」は低下しているため、低下の要因を今一度分析する必要があるのではないかと。思います。</p>
	<p>転入者数について、年ごとの変動を「意味のあるもの」と考えるか、変動しているものの「停滞している」と見るかで議論が異なると思います。</p>
	<p>基本目標は達成していないことから、身近な暮らしを守るために、特に推進施策（3）においては、中長期的な人口変動を考慮しながら、各地区、地域において、現行の範囲で持続可能な生活圏、及びコミュニティが維持できるか検討する必要があると思います。</p>
	<p>基本目標達成のためには、「コンパクト・プラス・ネットワークの推進」等は有効な推進施策と考えます。引き続き、生活者に寄り添った取り組みを期待します。</p>
	<p>中山間地域の女性の活躍を阻害する要因として、公共交通ネットワークの不足があります。子どもが中学生・高校生になると一般的には女性がフルタイムで働きやすくなりますが、公共交通ネットワークの不足から、通学時に最寄り駅まで自家用車での送迎が必要となるケースが多く、パートタイムで働かざるを得ない地域もあります。電車通学をする生徒が保護者の送迎に寄らず利用できる公共交通ネットワークの拡張が望まれます。</p>
<p>人口の減少は避けられない状況なので、引き続き周南市の特性を生かした、持続可能なまちづくりを進めていって</p>	

	いたいと思います。少子高齢化が進む中山間地域においても、今後様々な問題が出てくると思うので、今から準備をしておく必要があると思います。
--	---